



ヌマヅの住まい

STORY 2

“コク”のある暮らし 小山田 忍さん

閑静な住宅街にひっそりと佇むドライフラワー専門店「MEMENTO」。そこはとあるマンションの敷地の小屋をリノベーションしたもので、中に入ると色あざやかなドライフラワーに囲まれ、外観のヴィンテージ感とは裏腹に幻想的な空間になっている。店主の小山田さんとドライフラワーとの出会いは5～6年前。静岡のお店で買っ

て帰ったドライフラワーを見ているうちにその魅力に引き込まれていった。「ドライフラワーは生花と造花の中間にあるような気がしていて、その生と死の間を漂うような曖昧さが好きなんです。」幼い頃からデザインやアートの世界に興味があった小山田さんは、脱サラして侘び寂びを感じさせるドライフラワーの世界に進むことに。



▲かなり古い建物だがほとんど現状のまま使っているため、ドライフラワーの世界観とうまくマッチしている



▲店先にあるキングプロテア
この花との出会いがきっかけでドライフラワーの世界に飛び込んだ



▲天井には色とりどりのドライフラワーが吊るされていて、生花からドライフラワーへと変わっていく様子が肌で感じ取れる



▲同じ種類・同じ色の花をドライフラワーにしてもそれぞれ色味や葉のしおれ具合に違いが出てくる一つ一つが世界に一つだけのものだ



▲ドライフラワーにしたことで花の色味に深みが増す生花では味わえないドライフラワーの魅力の一つ



▲普段見慣れた木の実などもドライフラワーとしてディスプレイされると全く別のものに見える

沼津で一番最初にできたマンションの一室に住んでいる小山田さん。「MEmento」までは徒歩 30 秒。以外にも部屋の中にはドライフラワーは飾っていないという。「自分の職場がある意味で趣味の部屋みたいなものだから、今は結構満足しているんです。古いマンションなので多少住みづらいところもありますが、それはそれで味があると思うし住んでいて楽しい家だと思います。今は家族で少しずつ家の中をいじっているの、自分好みの部屋

ができればドライフラワーを飾ろうかなと思っています。」

小山田さんが住む前は画家の方が住んでいた。部屋の中全体がアトリエのように手を加えられている。「凄く面白い部屋があって、現在は使っていないので部屋の中を整理できたらワークショップの時などに休憩スペースとして使いたいです。」



▲店のすぐ隣にあるヴィンテージマンションが自宅庭で花を栽培してドライフラワーにしようと模索中



▲ドライフラワーを飾る小瓶なども小山田さんの好みのもの店内には小山田さんの好きなものが溢れている



▲オーダー品を製作中の小山田さん
 お店のインテリアとして飾るオーナーさんからの注文が多い
 最近ではそういったお店のお客さんも足を運んでくれるそうだ



▲生花を飾るだけが終わりじゃない
 ドライフラワーにすることで花の新しい物語を紡いでいく



▲不定期でワークショップも開いている
 今は不定期だが、これからは定期的に行ってみたいとのこと



▲行きつけのお店でコーヒーブレイク
 店主は沼津について語り合う仲間で小山田さんと同じ昭和53年生まれ
 「MEmento」周辺には同年代の人のお店が多く仲間内では昭和53年ストリートと呼んでいる

「MEmento」を開いてからまちを歩くのがさらに楽しくなったという小山田さん。「道端に咲いている野花や公園で剪定され放置されている草木も今の僕にとっては宝の山なんです。」そう楽しそうに話す小山田さんは散歩が毎日の日課なのだそう。朝早く起きて香貫山や千本浜に出かける。「まちなか近辺に住んできると山も海も意外と近くて歩いて行けちゃうんですね。歩きながら作品の素材を探したり、まちに新しいお店ができたならチェックしたりしています。」

千本浜を散歩している時、流木を見てどんな風に流れ着いたのか、これからどうなるのか、そんな物語を妄想するそうだ。木が緑生い茂る頃には感じなかった味わいが流木になると出てくる。それは花や住まいだって同じ。ドライフラワーにすることで、建物をリノベーションすることで味わいが出てくる。

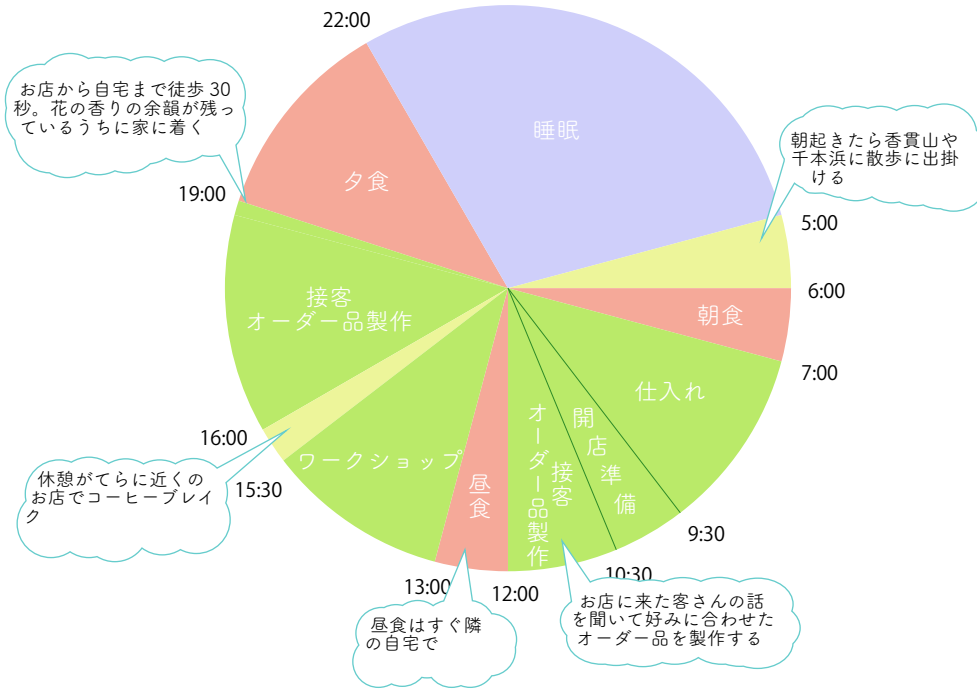
この味わいを小山田さんは“コク”があると表現する。「仲間とよく話すのは華はなくてもいいから“コク”があるまちにしたいよねってことです。大きなショッピングセンターやテーマパークとかはなくても、小さくても面白

いお店が集まれば住んでいて面白いまちになると思います。」



▲沼津のまちのことを話す小山田さんはなんだか楽しそう。

小山田さんのある一日



ひとことメモ

普段の暮らしの中で、まちの見方をほんの少し変えてみる。そうすると今まで気にもしなかったものに味を感じてくるかもしれない。周りを見渡せば実は“コク”のあるものばかりだ。

「華はなくても“コク”のあるまちに」この沼津というまちは、そんな考え方をして暮らしていくのにぴったりな場所かもしれない。